

豊門市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

● 第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
☐ 有	
☒ 無	

1 ■ 事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	交通安全施設整備事業										
1 - 2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	土木課	係	維持管理係	評価票作成者	維持担当係長 石川 悟			
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興				基本施策	道路	コード	3—1—1		
		「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」				単位施策(中)	生活道路の整備	コード	3—1—1—2		
	項	道路・交通				単位施策(小)	交通安全施設の充実	コード	3—1—1—2—4		
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市道 1, 2 9 3 路線 延長 3 4 8 . 0 9 2 k m			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		生活道路の安全性確保。				
1 - 5 事務事業の内容	交通安全のための道路施設整備。										

2 ■ 事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み				社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識			
	平成18年度	維持補修にあたって、利用者へ配慮した方法で実施した。			財政難による予算の確保に苦慮した。			要望意見の統一性が無く、個人本意の要望が強くなった。			
	平成19年度	〃			〃			個人意識の多様化に伴う対応に迫られた。			
	平成20年度										
	平成21年度										
	平成22年度										
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
	平成27年度										
2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(件)	後期目標値(件)	指標の説明				
	交通安全施設に対する、要望、苦情件数				200	150	市道の『安全な空間』を確保する目的で、道路施設利用者からの苦情、要望等の件数を数値目標と定めた。				
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	活動実績 a (件)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b (千円)	55	47								
	人件費 c (千円)	11,947	12,498								
	合計コスト d (b + c) (千円)	6,656	6,656								
	単位コスト d / a (千円)	18,603	19,154								
		契約件数1件当たり 338	契約件数1件当たり 407	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明



交通安全施設の内、苦情要望等で受け付けた内容の内実際に処理できた件数（発注件数）で、管理者実施分を含まない実数。
人件費は維持係全体の事業費からの按分 人件費=2,080時間×3.2=6,656(千円)/時間

2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	指標対応実 績（件）	162	157								
	後期目標値 に対する達 成度（％）	88%	93%								

H16現状値：248

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分 析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度 担当課評価	A	A								

- 4段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	計画的な維持管理に努め、苦情要望件数の減少につなげた。	路面表示について、重点的に取り組みたい。	限られた予算の中でおおむね要望に応えられた。
	平成19年度	〃	道路反射鏡について、重点的に取り組みたい。	〃
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		